

# うきたむ

## 第51号

### 2018.7.1

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館館報

山形県東置賜郡高島町大字安久津 2117 TEL 0238 - 52 - 2585  
FAX 0238 - 52 - 4665  
URL <http://ukitamu.pupu.jp/>



## 開館25周年を迎えて

山形県教育庁文化財・生涯学習課 岩崎恒平

県立うきたむ風土記の丘考古資料館は、平成5年の春に開館してから、今年度で25周年を迎えました。減少傾向が続いていた入館者数も、昨年度は17年ぶりとなる入館者数1万人越えを達成しました。開館からの年数とともに少しずつ老朽化が進む施設設備環境の中で、様々な工夫を凝らして事業を展開していただいている職員の皆様のご尽力に心から感謝申し上げます。

開館以来、考古資料館は展示や体験学習・講座を軸にこの25年間を歩んできました。考古資料をメインに展示する施設は県内に数少ない中で、毎年様々なテーマで実施する企画展は、県内の発掘調査成果・研究成果を県民の皆様にご覧いただく場として、なくてはならない機会となっております。考古資料館の魅力は、なんとと言っても本物の資料が間近にある環境の中で、数多くの体験学習ができることでしょう。「モノ」が持つ力は非常に大きいものです。私自身も業務の中で小学校に出前授業に出向く機会が多くありますが、本物の資料に目を輝かせながら嬉しそうに土器や石器を手にとって見る姿や、大盛り上がりで弓矢体験・火起こし体験等に挑む様子を見ると、体験学習やモノの持つ力の偉大さを思い知らされます。同時に、考古資料館のような施設がなぜ必要なのか、改めて気付かされる気がします。

複雑化する社会の中で、博物館は生涯学習・地域活動・観光拠点など、地域において多様な役割を求められるようになってきています。大変な時代ですが、そのような中でも本物だけが持つ力を大切にしながら、地域の歴史の学び場として、この先の開館30年、さらにその先の未来に向けて歩み続けてほしいと思います。

## 特別テーマ展

### 「押出遺跡の6次調査と

### 山形県内の縄文前期後半の世界」

平成30年6月9日(土)～9月9日(日)

今年度の特別テーマ展は、当館に移管になりました「押出遺跡の6次調査」の資料を公開し、あわせて近年研究が進んでまいりました縄文時代前期後半に焦点を当てて、当該期の県内の出土資料を展示することといたしました。

縄文時代前期後半の大木4式土器の資料は、押出遺跡以外は鶴岡市川内袋遺跡にややまとまった資料がありますが、最上地域や村山地域では今までのところ、未確認で、置賜地域でも米沢市に断片的な資料があるだけで、いまでも、極めて少ないといえます。その後の大木5式では県内各地で土器が出土し

ていますが、今回は川内袋遺跡と寒河江市高瀬山遺跡の土器を展示しました。川内袋遺跡の大木5式土器はすべて沈線で文様を描いています。仙台湾や山形県内陸地域との相違が認められます。

前期末葉の大木6式では資料が充実し、大木6式内での細かな変遷についての研究も進んできました。

最上地域ではなお、恵まれた資料がありませんが、庄内地域の遊佐町吹浦遺跡、村山地域の高瀬山遺跡、置賜地域の米沢市大壇B・八幡原A遺跡の出土品を各地域の代表として展示しました。大木6式での細かな変遷と地域による違いを感じ

ていただければと思います。また、形や文様が東北北部や関東・中部高地そして北陸地域の土器と類似するものもあり、他地域と活発な交流があったことも窺い知れます。

また、石器の組合せは当時の暮らしぶりを示しています。県内各地のこの時期の石器の種類や形などには共通性が見られるのですが、その量的な比率に違いも見られます。ほぼ同じ時期でもそれぞれの遺跡の立地の違いによるのでしようが、異なつた暮らしぶりがあったようです。

この他、押出遺跡の貝蓋や鯛の歯を取り込んだ漆塗りの装飾品、高瀬山遺跡の県内最古の土偶、川内袋遺跡のカツオブシ形石製品は県内初出であり、吹浦遺跡の土製球状耳飾など稀少品も展示しています。

## うきたむ考古資料館イベント紹介

当館では、毎年様々な体験学習のイベントを開催しております。今回はその中から、カラムシを使ったイベントを紹介したいと思います。

昨年より始まった「大人の自由研究」は、カラムシから繊維をとるところから始まります。7月はカラムシの皮をはぎ、引き具でこすり落として繊維をとり、その繊維を使って、12月に糸を縫ったり、ミニ織機やアンギン編みでコースターなどを作ります。今年度より、隣接する歴史公園内で青芋の栽培も始めており、来年度のイベントでは自家栽培の青芋を使って、刈取からイベントを行えるかもしれません。

また、今年度よりリニューアルしたイベント「カラムシで布をつくらう」では、ミニ織機を



▲大人の自由研究

## 第26回企画展

### 「木は語る」古代から近世の木簡と木製品

平成30年9月15日(土)～12月2日(日)

木は太古より、人々の生活と密接にかかわってきました。縄文時代の植

物利用をテーマとした第24回企画展「森と暮せば」縄文人の植物利用

社会が成熟していく時代をテーマとした第25回企画展「木と生きる」弥生・古墳時代の木製品

「」に続き、今回の第26回企画展では「木は語る」古代から近世の木簡と木製品」と題して、複雑になってゆく社会の中でさまざまな形で利用される木の姿をご覧いただきます。これまでの道具としての木製品に加え、文字を記すための木簡も多数展示いたします。

第一章は「建物と井戸」とし、古代・中世の建築部材や井戸枠、井戸車などを展示します。大形の井戸枠などは、迫力満点です。

第二章は「生活と道具」としました。農耕、手仕事、器と台所の三つに大きく分けて、生業、生活に必要な木の道具を展示します。日常に使われたありふれた道具だけ

第三章は「文字と祈り」として木簡や祭祀具を展示します。こちらも三部構成とし、呪符木簡や笹塔婆など祭祀にかかわる木簡と木製祭祀具、発掘された祈りの場である俵田遺跡の人面墨土器や人形・馬形、その他文字の書き残された古代から中近世の木簡や木製品などを展示します。文字という形でじかに伝えられる歴史の迫力を感じていただければと思います。

第四章は「さまざまな木」と題して、扇や櫛など身につける木製品や、独楽、羽子板、将棋の駒など娯楽に関わるもの、茶道に関わる雅な道具などを展示します。また、

古代から中近世の武具や馬具、戦国の世の緊迫感の伝わる、なまり玉や太刀などの記載のある木簡も展示します。

今回の企画展ではそれぞれの時代を感じることを。の出来る木簡、木製品を多数展示いたします。複雑になっていく社会の中で多様な姿を見せる「木」を通じて、往時に思いを馳せてみてください。

### 催し物のご案内

今後の催し物です。興味のあるものがありましたら、ぜひ足をお運びください。  
(詳細はお問い合わせください。)

- ◆特別テーマ展開連講座 7月8・15・22日(日)
- ◆大人の自由研究 7月21日(土)・12月15日(土)
- ◆勾玉・弓矢・石器をつくろう！ 7月14日(土)・11月3日(祝)
- ◆スクールオブジョウモン 8月10日(金)
- ◆第26回企画展 9月15日(土)～12月2日(日)
- ◆第17期考古学セミナー 9月30日・10月14日・11月4日(日)
- ◆秋の遺跡めぐり 10月28日(日)
- ◆企画展記念講演会 11月18日(日)
- ◆ガラス玉をつくろう！ 12月1日(土)
- ◆カラムシで布をつくろう 12月1日(土)
- ◆考古資料検討会 2月3日(日)



# 義民 高梨利右衛門 酬恩碑

高島町二井宿 ● 近現代

高梨利右衛門の酬恩碑は、高島町二井宿地区の二井宿小学校の校庭の東側にあります。高さ五メートルあまりで、台座は約二メートル、高島町で採れる高島石と呼ばれる凝灰岩でできています。凝灰岩で造られたものとしては日本最大級であり、高島町の文化財にも指定されています。

利右衛門は、置賜郡屋代郷（現二井宿）に生まれ、家は代々農業を営んでいました。

その後、屋代郷は元禄二年、米沢藩の支配から脱し、幕府直轄地となりました。利右衛門は、米沢藩領でした。寛文四年（一六六四）に米沢藩が十五万石に削封になると、幕府領となりましたが、米沢藩の預地となり、米沢藩の支配が続きました。米沢藩では重い税を取り立てるとともに、専売制を強化して、農民が勝手に他所に物を売ることが禁止されたため、農民の暮らしはますます貧しくなっていました。

このため、寛文六年、新宿村の肝煎であった高梨利右衛門は、米沢藩の悪政を六十二か条にわたって書き綴った嘆願書を信夫郡の代官所に提出しました。しかし、代官所への嘆願では埒が明かなかったため、江戸に出て幕府への直訴を試みましたが、越訴の罪により捕らえられ、元禄元年（一六八八）に二の坂刑場（二井宿地内）にて処刑されました。

その後、屋代郷は元禄二年、米沢藩の支配から脱し、幕府直轄地となりました。利右衛門は、米沢藩領でした。寛文四年（一六六四）に米沢藩が十五万石に削封になると、幕府領となりましたが、米沢藩の預地となり、米沢藩の支配が続きました。米沢藩では重い税を取り立てるとともに、専売制を強化して、農民が勝手に他所に物を売ることが禁止されたため、農民の暮らしはますます貧しくなっていました。

また、お隣の高島町郷土資料館では、高梨利右衛門没後三百三十年を記念して、八月一日より利右衛門に関する企画展を開催する予定です。画展を開催する予定ですので、そちらにも是非足をお運びになられてはいかがでしょうか。

このため、寛文六年、新宿村の肝煎であった高梨利右衛門は、米沢藩の悪政を六十二か条にわたって書き綴った嘆願書を信夫郡の代官所に提出しました。しかし、代官所への嘆願では埒が明かなかったため、江戸に出て幕府への直訴を試みましたが、越訴の罪により捕らえられ、元禄元年（一六八八）に二の坂刑場（二井宿地内）にて処刑されました。

また、お隣の高島町郷土資料館では、高梨利右衛門没後三百三十年を記念して、八月一日より利右衛門に関する企画展を開催する予定です。画展を開催する予定ですので、そちらにも是非足をお運びになられてはいかがでしょうか。



▲ 高梨利右衛門 酬恩碑

## 我が館の展示品 (39)

### 石皿と凹石

縄文時代

● 小国町 谷地遺跡

縄文時代中期の谷地遺跡からは、当時の人々がどのように食材を調理していたのかが見える遺物が、様々発見されています。

この石皿と凹石は、主に硬い木の実を割ったり、粉をひいたりする用途に使われていました。

縄文時代には、クリ、クルミなどの木の実を使って焼いた、縄文クッキーなどと呼ばれる食べ物がありました。こうしたものを調理する時に、石皿、凹石は欠かせないものだったのだらうと考えられます。



## 図録刊行!

特別テーマ展

「押出遺跡の6次調査と山形県内の縄文前期後半の世界」



特別テーマ展の内容をまとめ、図録を刊行いたしました。展示内容を、展示資料の写真やパネルの図版をふんだんに使用し、オールカラーでより詳しく、わかりやすく解説しています。

詳細は、当館までお問い合わせください。

### 展示遺跡

- 高島町 押出遺跡
- 鶴岡市 川内袋遺跡
- 遊佐町 吹浦遺跡
- 寒河江市 高瀬山遺跡
- 米沢市 柿の木遺跡・塔の原遺跡・大壇遺跡・八幡原A遺跡